

分野	43	産業	通番 97
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	創業支援事業	会計	款	項	目	20,264	商工観光課
		一般	7	1	2		
	事業の概要						
創業者の増加は市内商店の増加だけではなく、課題となっている空き店舗対策や、小売店増加による市民の生活基盤安定等、地域経済の活性化や生活基盤の安定にも繋がるものであることから、創業支援事業計画に基づいて、創業・起業希望者の支援を行います。							

令和2年度の取組						
D (取組)	指標	新規創業相談者数(創業支援計画に基づく支援事業内容ごとの累計)				単位 人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	平成28年度 新規事業	目標	70	85	100	115 130
		実績	89	166	154	70 66
	指標	新規創業者数(創業支援計画に基づく支援事業内容ごとの累計)				単位 人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	平成28年度 新規事業	目標	25	30	35	40 43
		実績	6	30	26	21 6
	・創業支援等事業計画について計画の期限が到来し、引き続き創業支援に注力して、令和7年9月末までの延長を行いました。 ・創業支援機関と創業連絡会議を開催し、情報の共有化、今後の事業展開について調整を行いました。 ・創業支援機関や先輩創業者と連携し創業希望者を対象としたイベント(ビジネスカフェ)を3回計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により1回のみの実施となりました。 ・令和元年度に好評であった地域クラウド交流会についても新型コロナウイルス感染症の影響により、開催することができませんでした。					令和2年度ビジネスカフェ
						

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和2年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		新たな起業者数		平成21年度より廃業数が新設数を上回っている傾向は続いていますが、廃業者数は減少しています。	206
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・ 創業に関する相談者数については令和元年度とほぼ同じでしたが、創業者数については新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な減少となりました。 ・ 創業支援に関する事業の開催が困難でしたが、ビジネスカフェ受講者が講師を務めた先輩創業者に個別に相談され、創業につながるなど創業支援事業の成果が始まっています。	
	課題等	・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、収容人数が制限され、イベントや勉強会の開催が難しくなる中、創業意欲のある方に、適切な情報提供や感染症対策を踏まえた相談支援体制を構築し、創業者を増やしていく必要があります。			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 対応策等 1: 計画通りに進めることが適当 創業に興味を持つ市民が参加するビジネスカフェと、実際の創業に向けて長岡京市商工会が実施する「創業塾」との中間事業の在り方について、商工会と共同実施も含めた検討等を行い、これまで以上に伴走支援体制を強化します。

分野	43	産業	通番 98
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	商工会支援事業	会計	款	項	目	15,472,000	商工観光課
		一般	7	1	2		
	事業の概要						
地域商工業の発展や、中小企業の育成を推進するため、商工会の組織強化と実施する経営指導や人材育成など各種事業を支援します。また、地域経済の活性化に向け、プレミアム付き商品券事業の継続と販路拡大に向けた取り組みへの支援を行います。							

令和2年度の取組						
D (取組)	指標	商工会員数				単位 人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	1,084 (平成26年度)	目標	1,140	1,150	1,140	1,150 1,160
		実績	1,112	904	868	739 789
	・中小企業者への経営改善指導、地域振興策への支援を行うため経常的経費に9,235千円、特別事業費に3,607千円の支援を実施しました。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、当初予定していた事業が一部出来ませんでしたが、商工会との協働事業として長岡京市お店応援食事券(2,630千円)を実施するなどコロナ禍に応じた事業展開を支援しました。 ・既存会員への巡回訪問や、創業希望者に対するセミナーである創業塾を実施しました。				長岡京市お店応援食事券 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和2年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		市内民間事業所数・従業員数の推移		・経済センサス基礎調査・活動調査については各々5年ごとの発表であり、令和2年12月発表分については、統計資料なし。次回令和4年度公表予定。	206
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・新型コロナウイルス感染症の影響により商工会活動が制限されガラシャ祭イベント等が出来ませんでした。また、「新しい生活様式応援券」の発行があり、商工会としての商品券事業は中止となりました。 ・お店応援食事券については、3,500冊の発行、事業規模5,127,500円となりました。応援券を店舗が発行する形式にしたことにより、消費者の応援が直接事業者に伝わったこと、飲食店が新型コロナウイルス感染症の影響で収入減となっていた時期に商品券を発売したことにより、現金収入が得られることとなり、事業者の方からも好評でした。 ・個別相談窓口やお店応援食事券について、会員・非会員を問わず対応したこと、補助金の申請や経営相談についても、同様の対応を行ったことにより商工会活動の理解が広がり、加入数について80者増加しました。(純増は50者)	
	課題等	・会員に寄り添った経営支援を商工会と共に実施すること、非会員も含めた支援を行っていくことで新規加入者を増やしていく必要があります。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う経営状況の悪化や「新しい生活様式」にあった商工業者への業態変革の取組を支援していくことが必要です。			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者からの経営相談等を通じ、今後の事業者支援に対するニーズの把握を行ったうえで、商工会と連携しながらWithコロナにあった支援策を講じていきます。 ・業態変革の取組を行う事業所に対し商工会の経営支援員の伴走と市、商工会の補助金による経営変革を支援します。

分野	43	産業	通番 99
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目				決算額(円)	担当課
	企業誘致の促進	会計	款	項	目	11,467,000	商工観光課	
		一般	7	1	2			
	既存企業や事業所の動向を注視しつつ、京都府や各所管において情報共有を図るとともに誘致促進に向けた体制を整えます。また、長岡天神駅周辺まちづくり基本構想に基づく土地利用計画に沿った誘致政策に取り組みます。							

令和2年度の取組						
D (取組)	指標	企業進出に係る相談件数				単位 件
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	5(平成22～ 26年度累計)	目標	2(2) ※()内は期間累計	2(4)	3(7)	3(10) 4(14)
		実績	5(5)	1(6)	1(7)	6(13) 7(20)
	指標	5年間で企業立地促進助成対象となった企業数(累計)				単位 件
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	1(平成26年度単年度 助成対象企業数)	目標	1	1	2	2 3
		実績	1	1	1	2 3
	・長岡京市企業立地促進条例及び長岡京市企業立地促進条例施行規則に基づき、助成金を交付しました。(参考) 操業支援助成金9,078,000円 地元雇用促進助成金1,800,000円 ・長岡京市宿泊施設立地等促進事業費補助金要綱に基づき、補助金を交付しました。(参考) 操業支援補助金589,000円 ・コロナ禍でしたが、企業進出に係る相談件数は7件あり、例年と比べて多くありました。					

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		
	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		
	評価指標	—		
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・企業進出に係る相談件数、助成件数ともに目標を達成し、相談件数については7件と目標を大幅に上回りました。 ・企業からの相談、問い合わせが7件あり、物流業、製造業の工場立地についての問い合わせが多くありました。
課題等	・相談件数は増えたものの、市として土地の案内等、具体的な提案をすることが出来ない点が課題です。			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
1: 計画通りに進めることが適当	対応策等
	・農林振興課、まちづくり政策室、都市計画課等関係部署と連携しながら、情報収集を行い、取りまとめた上で情報提供を行っていきます。

分野	43	産業	通番 100
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	産業文化会館維持・更新事業		会計	款	項	目	19,784,068	商工観光課
			一般	7	1	3		
	事業の概要							
老朽化が著しい産業文化会館については、計画的に修繕を行い、安心安全な会館運営に取り組みます。市庁舎との複合化に向けた準備として複合化の際に求められる耐震化やバリアフリー化、利便性の向上に向けた検討を進めます。								

令和2年度の取組						
D (取組)	指標	産業文化会館年間利用者数				単位 人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	70,963 (平成22～26年度 5か年平均)	目標	71,000	71,000	71,000	71,000
		実績	80,960	69,436	69,975	68,890 25,288
	- 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、緊急事態宣言発令下での貸館業務の一時停止（令和2年4月6日～5月31日）や、夜間利用の制限（令和3年1月16日～2月28日）を実施しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の防止を理由とするキャンセルについては、利用料の全額還付を実施しました。 - 産業文化会館駐輪場にシェアサイクルステーションを設置しました。				産業文化会館 	

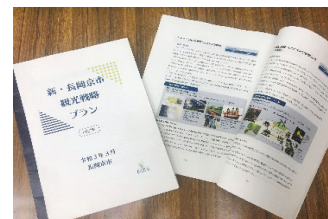
施策の「5年後の目標」に対する評価 令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	C: 目標の一部を達成できなかった	達成状況	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、貸館業務の休止や夜間利用の休止、利用人数の上限設定等、制限を行ったこと、使用者が感染予防のためにキャンセルされたことなどにより、利用者数は大幅に減少しました。
	課題等	新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、Withコロナにあった会館利用について検討していく必要があります。		

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 2: 進め方の改善の検討が必要 対応策等 市庁舎との複合化に伴う利用基準の整理と適正な使用料を検討していきます。

分野	43	産業	通番 101
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	観光戦略プランの見直しと推進	会計	款	項	目	2,643,412	商工観光課
		一般	7	1	4		
事業の概要							
	観光戦略プラン推進本部会議を本市の観光施策展開におけるシンクタンクと位置付け、マーケティング調査結果や各種事業結果の分析に基づいたアクションプログラムの見直しを行います。また、包括的な視点で進捗管理を行うことで、より魅力的なまちづくりと効果的な観光誘客促進につなげます。						

令和2年度の実績						
D (取組)	指標(H29年度～)	観光消費の向上に取り組む店舗・事業者数(累計)				単位 件
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	平成28年度 新規事業	目標	観光戦略プラン及び アクションプログラム 見直し	20	40	60 80
		実績	新・長岡京市観光戦略 プランの策定	21	36	95 95
	・前期最終年度にあたり、長岡京市観光推進本部において、観光戦略プラン策定後の社会経済情勢の変化や、前期期間の進捗状況、現状の課題、今後の方向性について議論を行い、観光戦略プランの中間改訂を行いました。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大に対応する取り組みとして観光創造部会のメンバーと共に、古墳を巡るオンラインツアーの動画配信を行いました。				新・長岡京市観光戦略プラン(改訂版)	



施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和2年度の達成状況						
C (評価)	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド			対応頁
	観光入り込み客数・一人あたり観光消費額(年間)		・新型コロナウイルス感染症の拡大と緊急事態宣言により、観光入込客数は半減しましたが、一人あたりの観光消費額は維持しました。 ・市内の観光施設が観光入込客数を半減する中、新たな観光ブランドイメージの発信拠点としてリニューアルを行った勝竜寺城公園は、周遊イベントの開催や大河ドラマ放送によるメディア露出の増加などにより、前年比約5%の増となりました。			205
	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・新型コロナウイルス感染症の拡大により、活動が制約される中ではありましたが、観光協会と連携して観光消費の受け皿として募集した飲食店や物販店などの「おもてなし店舗」をマップやホームページでPRするとともに、観光商品や体験プログラムの造成に向けた事業者への支援を行いました。			
	課題等		・旅やお出かけの「目的地」としての長岡京市のイメージが浸透していないことが課題です。 ・本市を訪れる目的となる飲食や商品、体験プログラムなどの観光コンテンツ群の組成に向けた、市内の事業者(プレイヤー)の取り組みや連携に向けた支援を行う必要があります。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	・新・長岡京市観光戦略プラン（改訂版）に定めるアクションプログラムを着実に実施していきます。 ・withコロナに対応する観光商品や体験プログラムの企画・開発など、前期に発掘を行ったプレイヤーや観光創造部会の取り組みを支援します。

分野	43	産業	通番 102
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	観光誘客のための環境整備事業		会計	款	項	6,362,004	商工観光課
			一般	7	1		
	事業の概要						
	観光バス駐車場(待機所)の計画的な整備や、物流・販売・にぎわい創出拠点としての農・商・観連携による「道の駅」的施設の設置検討を行うなど、観光誘客インフラ整備の充実を図ります。また、高速バス停や阪急西山天王山駅などを活用した新たな誘客・消費システムの構築に向けた各種事業の展開を図ります。合わせて乙訓二市一町や京都府北部、京都市などと「広域連携」をキーワードに広域的な事業展開を図ります。						

令和2年度の取組						
D (取組)	指標	道の駅の施設設置				単位 ー
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	庁内ワーキンググループでの検討 (平成27年度)	目標	マーケティング調査実施及び外部設置検討委員会設立	基本構想の策定及び調査設計実施	基本計画策定に向けた検討	基本計画の策定
		実績	長岡京市道の駅の施設整備基本構想の策定	長岡京市道の駅の施設設置検討に向けた農業関係者専門部会中間報告書の作成	長岡京市道の駅の施設設置検討に向けた農業関係者専門部会報告書の作成	ソフト面での観光誘客・消費システムの構築に向けた事業者への働きかけ
	・ソフト面での観光誘客・消費システムの構築に向け、飲食・物販・体験などのサービス開発に向けた事業者への働きかけを行いました。 ・整備を終えた観光バス駐車場を活用するため、広域連携で取り組む「竹の里・乙訓」と「大河ドラマ推進協議会」として旅行会社との商談会に参加し、ツアー造成につなげることができました。 ・京都市・向日市と連携して自転車での周遊イベントを開催したほか、2次交通の課題解決と周遊のための環境整備として、両市で先行導入する事業者との協定に基づき、シェアサイクルステーションを設置しました。				シェアサイクルステーション 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド
		ー		ー
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・広域連携で取り組んできた「大河ドラマ推進協議会」での商談を通じて、明智光秀ゆかりの地や、御城印巡りのツアー造成ができました。 ・乙訓二市一町に加えて、京都市との広域連携を具体化させ、春や秋の観光資源の情報共有を行い、周遊ルート形成の検討を行いました。
課題等	・新型コロナウイルス感染症の影響や大河ドラマ終了によるツアーの減少が課題であることから、新たなツアー造成につながる観光商品の開発に向けた事業者への支援が必要です。			
	・京都市を訪れる観光客を誘客できないことが課題であるため、乙訓二市一町と京都市と広域で連携し、「京都・西山」エリアの観光イメージの形成に向けた観光商品造成やプロモーションを行う必要があります。			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 対応策等
4:根本的見直し、休・廃止の検討	・ソフト面での観光誘客・消費システムの構築に向け「新・観光戦略プラン」に定めるアクションプログラムを推進し、観光コンテンツの創出や旅行商品の造成に向けた事業者への支援や、旅・お出かけ先としての観光ブランドイメージの形成などの取り組みを進めていきます。